

会 議 録

会議の名称	令和５年度本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和６年２月１５日（木） 午後 ２時００分から 午後 ３時３０分まで
開催場所	児玉郡市広域市町村圏組合事務所 ３階大会議室
出席者	委員－清水委員・矢代委員・種村委員・風間委員・村上委員・田中委員・ 鈴木委員・鳥羽委員・萩原委員・飯島委員・上野委員 事務局－本庄市 内田企画財政部長、橋本企画課長、 日野企画課長補佐兼政策係長、矢本主事 美里町 萩原総合政策課長 神川町 春山総合政策課長、谷澤主事 上里町 坪本総合政策課長 児玉郡市広域市町村圏組合 我妻総務課長 埼玉県北部地域振興センター本庄事務所 坂下地域調整幹
欠席者	五十嵐委員・田端委員・江原委員・高野委員・神宮委員
議題 (次 第)	(１) 本庄地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況及び所要の変更について (２) 次期共生ビジョンに向けた検討状況について (３) その他
配付資料	令和５年度本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会次第 令和５年度本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿 本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱 資料１ 本庄地域定住自立圏共生ビジョン 資料２ 本庄地域定住自立圏共生ビジョン令和５年度取組進捗状況報告書 資料３ 令和４年度取組進捗状況報告に対する意見と各ワーキンググループの考え方 資料４ 次期本庄地域定住自立圏共生ビジョン改定スケジュール 資料５ 次期本庄地域定住自立圏共生ビジョン体系図（案） 参考資料 本庄地域定住自立圏共生ビジョン KPI 進捗状況一覧
その他特記事項	
主管課	本庄市企画財政部企画課

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (橋本課長)	皆様には、お忙しいところ、令和５年度本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。 本日、司会を務めさせていただきます、本庄市企画課の橋本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 会議に先立ちまして、ご報告と資料確認等をさせていただきます。まず、本日欠席の委員のご報告させていただきます。 埼玉ひびきの農業協同組合 五十嵐雅樹様、児玉地方農業委員会連絡協議会 田端 講一様、本庄市観光協会 江原 貞治様、朝日自動車株式会社本庄営業所 高野 寿臣様、以上です。 次に、この懇談会の公開についてですが、懇談会、審議会等の会議は、原則公開することとなっておりますのでご了承いただきたいと思います。なお、本日の傍聴者はおりませんので、ご報告いたします。 続きまして、配布資料等の確認をさせていただきます。
(会議資料の確認)	
事務局 (橋本課長)	それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。 ただいまより、令和５年度本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。 次に、開会にあたりまして、懇談会会長よりご挨拶を頂くところですが、会長であった岩上会長が本庄市自治会連合会長を交代され、会長の職が空席となっておりますので、先に当懇談会の会長を選出いたします。「本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第５条第１項」で「懇談会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める」とされておりますが、いかが取り計らいましょうか。
〔事務局一任〕の声あり)	
事務局 (橋本課長)	それでは、例年本庄市自治会連合会長に本懇談会の会長を担っていただいておりますので、本庄市自治会連合会の鳥羽孝夫様にお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。
(異議なしの声あり)	
事務局 (橋本課長)	ご異議がないようですので、皆様拍手にてご承認をいただきたいと思います。 それでは、会長は前の会長席へご移動をお願いいたします。ここで鳥羽会長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(会長挨拶)	
事務局 (橋本課長)	ありがとうございました。 続きまして、議題の（１）に入らせていただきます。会長が決まりましたので、ここからの会議の進行につきましては、設置要綱第６条第１項により会長が議長となつて行うこととなっておりますので、鳥羽会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
鳥羽会長	それではここから議長を務めさせていただきます。 議題の（１）本庄地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況及び所要の変更について、事務局より説明をお願いします。
(本庄地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況及び所要の変更について説明)	
鳥羽会長	事務局の説明を受け、委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。少し分かりづらい内容もあるかと思いますが、いかがでしょうか。
鈴木委員	まずはワーキンググループで昨年度の意見に対して、これだけ検討いただいたことにお礼申し上げます。埼玉工業大学は深谷市の大学ですけれども、アクセスしやすい地域に立地している大学ですので、人材育成の分野において連携できるということで、この地域にとってとても素晴らしいことだと思います。 １年間何が問題なのかなと考えたのですけれども、現行のビジョンにおいて、人材育成の分野の基本目標に掲げている指標を「早稲田大学との連携事業数」としてはいますが、やはり数というよりは、効果がすごく重要なのかなと思います。どんな目的で、何を人材育成に求めているかが抜けていて、指標が連携事業の数になってしまっているのではないかと思います。 また、日本薬科大学や日本女子体育大学や埼玉工業大学との連携が進んでいるようですので、三つほど大学と連携できるとよいことを考えてみました。 一点目は産業創出です。地域の産業を興していくということが大切なのではないかと思います。 具体例を申し上げますと、熊本でT S M Cの工場進出ということで、今地域の関係産業人口がものすごく不足しており、地域ぐるみで熊本県それから国家等色々なところが一生懸命になって人材育成に取り組んでいます。地域でどんな産業を興していくのかということに合わせて、埼玉工業大学や早稲田大学と協力すべきだと思いますので、ぜひそういった検討を進められるとよいと思いました。 二点目は健康です。やはり市民が健康であることは基盤になると思っています。地域の健康ということで日本薬科大学や日本女子

	体育大学は3町とのお付き合いもありますし、また、本庄市は早稲田大学ともスポーツの分野で色々な取り組みをさせていただいておりますので、ぜひ健康についてもテーマとして取り組めるとよいのではないかと思います。 三点目は、これはすでに今のビジョンでも盛り込まれていると思いますが、やはり行政サービスの高度化というところです。私は今本庄市の方で、シティプロモーション事業に団体選出枠ということで出席をしておりますが、一般公募を通じて集まった若手の方の中で非常に活発な意見が交わされています。それから、本庄市の職員も日曜日にも関わらず集まって一生懸命取り組んでおり、非常に私は感銘を受けています。そういった意味では、やはりその地域をよくしてくれる核となる人材として行政職員が本気になってサービス向上を目指していく行政の高度化、そういったものをぜひテーマとして、掲げられるとよいのではないかと思います。
鳥羽会長	素晴らしいご意見ありがとうございます。今の件について何か事務局の方から何かございますか。
事務局 (矢本主事)	ご意見ありがとうございます。まず1つ目のKPIに関しましては、やはり連携の数というよりは内容が重要であると考えております。議題2でもお話させていただきますが、現行の計画が来年度で計画期間を満了するため、現在次期計画の検討を進めているところです。その中で、次期計画では例えば受講者満足度ですとか、効果がわかるような適切な指標を設定したいと考えております。 また、産業創出、健康、行政サービスの高度化といった分野での大学との連携についてですが、産業の分野は農業や観光、健康の分野は医療、そして職員の研修について検討しているワーキンググループがありますので、それぞれの分野においても埼玉工業大学、日本薬科大学等の大学をはじめ、地域の方々と連携して取り組んでいけるよう検討していきたいと思います。
鳥羽会長	今後今の三つの点を含めまして、より一層中身が濃くなるよう連携できるとよいですね。他にはどうでしょうか。
種村委員	私は障害者福祉という分野を代表して出席させていただいておりますけれども、鈴木委員がご発言されたとおりの数値的にはよく出ているのですけれども、その数値よりは、何をビジョンとして取り組んでいて、その結果の答えとしてというところに若干違和感があります。 この地域で行っている障害者福祉施策として、相談事業があると先ほどお話がありました。基幹相談支援センターや、自立支援協議会などいろんな事業を行っているのですけれども、そういう中で、

	障害者が苦境に立ったときの手当というものはありますが、苦境に立たないための予防的な手当が欠けていると感じます。この地域で安心して生活しましょうということであれば、起きちゃってからそれを手当するというよりは、起きないようにするための手当の方がまさに共生ビジョンのテーマに沿っているような気がします。 例えば、就業のことを考えてみます。障害を持った方々の中には、教育を受ける前に障害を持った方と、中途障害の方がいらっしゃいます。中途障害の方々は、それなりの高等教育を受けている方が多いので、例えば手足を失ったとしても次のリハビリが効く訳です。それに比べて教育を受ける前に障害を持った方々に関しては、やはりいろんな面で高等教育の場にたどり着く場面が少なく、社会的規範が欠けているという大きな問題があります。教育を受ける前に障害を持った方々のほとんどは障害者の中で生活しており、いわゆる一般の市民との間の社会性というものが、身についていません。そういう部分において、いざ社会に出て就職しようといったときにネックになって、企業とのマッチングがうまくいかないといった事例がいくつか出てきています。 私の考えからしますと、知的・精神障害のことは深く分かり兼ねる部分はありますが、少なくとも一般のいわゆる公立の小中学校に通える能力があるのであれば、なぜ一般の学校へ通えなくて、特別支援学校に通わなければならないのか。それは単なる物理的な問題が大きく影響しているのだと思います。ですから、先ほど言ったように、要は、そういうお子さんたちが大人になっても十分な教育を受けるとともに社会性を持った1人の人間としてちゃんとした就労に結びつけられるような、そういうふうな仕組みが、必要なのではないかと思います。これはやはり後のケアというより前のケアという基本的な部分を少し考え直さないと、障害者としては支援を受けるだけの立場になってしまいます。障害者が個々の力を発揮し、社会的貢献が障害者でもできるという、十分その素養素質はあるのだと思います。それを繰り返していかないと真の人材育成にはならないのではないかと思います。この会議の意見に限らずですが、以上です。
鳥羽会長	非常に素晴らしい前向きなご意見で、私たちが生活する中で次に何をしたらよいかということは当然考えますけども、やはりここに住んでよかったと思えるのは現在の状況があって初めて生まれてくるものだと思います。今のビジョンも非常に課題が大きいと思うのですけども、考える余地がこれからあるのかと思います。何か事務局からありますか。

事務局 (橋本課長)	ご意見ありがとうございます。昨年度、国際連合からも分断教育としての是正勧告等も日本として受けているというところもごさいますので、そういったところはしっかり受け止めて、今後活かしていきたいと考えております。以上でございます。
鳥羽会長	時間も迫っておりますけれども、他いかがでしょうか。
風間委員	私も福祉分野代表として出席をさせていただいておりますが、福祉だけではなくて、そもそもこの本庄地域定住自立圏はどこまで住民に知らされているのでしょうか。やはり住民の安心した生活を目指すということであれば、これが浸透していなければならないと思うので、積極的にどう公表していくかということも考える必要があるかと思います。公表しているという私たち側だけの視点ではなくて、何か仕組みを考えていく必要があるのではないかと思います。
鳥羽会長	おそらく事務局も広報等により情報発信しているかと思いますが、ワークショップなどでただお知らせするだけではなくて、全員の対象にするのは難しいとは思いますが、講演会の開催などでより一層お知らせすることに意味があるかなと思います。今の意見に対していかがでしょうか。
事務局 (矢本主事)	ご意見ありがとうございます。近年電子媒体の普及も進み、様々な手段が可能になっておりますので、他の周知方法についても検討したいと思います。
鳥羽会長	他にいかがでしょうか。
村上委員	資料２、２７ページの広域観光推進事業の内容が抽象的過ぎなので、具体的に何をしているのでしょうか。
事務局 (矢本主事)	前のページに少し関連しますが、１市３町で「本庄地域広域観光振興協議会」というものを運営しており、協議会の構成市町で取り組んでいる観光事業が事業内容です。今年度は主にPR活動を行い、９月に「道の駅はなぞの」で、１１月に「ほんじょう産業フェスタ」で、令和４年度に作成した手提げ袋を用いて観光パンフレット等を配布しました。
鳥羽会長	そのようなことがもっと分かりやすく計画に書いてあるといいということですね。他にいかがでしょうか。
田中委員	資料２、６２ページで、細かいことなのですが、公益財団法人本庄早稲田国際リサーチパークは、早稲田大学本庄高等学院と連携して本庄市内の総合学習の取組を行っています。中学校での取組は行っておりません。また、昨日鈴木委員とともに、今年度の当財団の事業報告をしたわけなのですが、早稲田大学が茶道教室であったり、チアリーディングであったり、様々な出前講座を本庄市の市内の小学校にしているのですが、今年度実施した学校は仁

	手小、藤田小、秋平小、西小の４校だけで非常にもったいなく感じました。今後はぜひ教育機関と連携して多くの学校で実施できるとよいと思います。
鳥羽会長	今実際には４校しか実施をされてないということでしたが、来年度は、小中学校の校長会にも声掛けして、拡大していけるとよいのではないかと思います。 時間も押してきておりますので、いただいたご意見を踏まえてまた事務局で精査し、次のビジョンではより具体的に検討できるようにしていただければありがたいと思います。 それでは議題１は以上にしまして、議題２の方に移りたいと思います。事務局の方からご説明をよろしくお願いいたします。
(次期共生ビジョンに向けた検討状況について説明)	
鳥羽会長	今事務局から日程と次期ビジョンについての検討状況について説明がございました。変更になったところと新しく取り組むところの説明を伺いましたけれども、非常に多岐にわたる内容ですが、やはり地域に住んでよかった、住んでみたいと思えるそんな内容をこのビジョンの中で作っていくのかなと思います。皆様からご意見はありますでしょうか。
鈴木委員	次期ビジョンの体系図の中で、「大学等との連携」とご提案をいただきました。最近知ったのですが、本庄ガスとか、カインズとか、まちづくりに参加して実際に色々なことをされています。また、ＪＲ東日本は、これはどちらかというとイベントなのですけども、本庄早稲田駅等で教育的な活動も含めて実施されています。 「大学等の」と書くと、大学だけなのではないかと思われてしまうのも、活躍されている企業の方々のことを考えると忍びない感じがするので、ぜひご検討いただいた方がよいと思いました。 また、不登校支援としてふれあい教室も出ましたけれども、それ以外にも、経済的にこどもを塾に行かせられないといった問題も全国で増えています。あるいは食事なんかでもこども食堂ですとか、いろんな方法で、地域でこどもを育てる、その真剣さはおそらく大学以上のものがあるのではないかと思います。そういったことを含めて、大学を含む地域の様々な資源一丸となって取り組んでいけるような内容になるとよいと思いました。「子ども大学ほんじょう」と具体的に出しすぎるのも同じ問題をはらんでいるような気がするので、今申し上げたようなこども食堂ですとか、塾に行けないこどもたちに向けたボランティア活動等を含め、もう少し広くこどもたちを地域で育てるとするとよいのではないかと思います。
鳥羽会長	カテゴリにこだわらずに、その地域に住む方が全ての方が連携で

	きるとよいですね。ビジョンには、大きなイメージを作り、具体的な取組は何かやってみて、P D C Aで次の取組を行うといったようにしていけばよいのかと思いましたが、事務局の方からいかがでしょうか。
事務局 (矢本主事)	ご意見ありがとうございます。この地域には地域貢献に非常に熱心に取り組んでいる民間企業の方々がいらっしゃいますので、そういった方々との連携でしたり、連携する内容についても検討したいと思います。
鳥羽会長	議長の立場ですが、交通の分野においてライドシェアについて検討はできるものなのでしょうか。
事務局 (矢本主事)	交通の分野における取組は、圏域を移動する民間のバス路線を維持するための支援と、各々の市町での取組にとどまっているというのが現状です。各市町の事情もあり、本庄市ではデマンドバス、美里町、神川町ではタクシーの利用補助、上里町ではコミュニティバスと、一つの手段でサービスを提供するのが難しいという現状の中で、新しい取組となると難しいところもありますが、ご意見をいただいたということで担当のワーキンググループにはお伝えしたいと思います。
上野委員	ライドシェアの問題は上里町でも議論になりました。東京の先生によると、ライドシェアは企業の動きが重要なようです。企業がどのように考えて、どのように取り組むかにもよると思います。 また、文化財の保存活用についてですが、本庄市と上里町は、旧中山道があります。それ以外にも文化財が色々存在しているということですが、それに対して区長会では1回も議題に出ませんでした。文化財はその地域の財産であって、先人を敬うものですので、地域で守っていくということをぜひ進めて欲しいと思います。
鳥羽会長	ありがとうございます。今の意見を踏まえて事務局いかがですか。
事務局 (矢本主事)	ご意見ありがとうございます。この地域にはたくさんの文化財が存在するということで、今後も文化財保存啓発事業として文化財の保存、また企画展の開催などを検討しているところです。より多くの地域の方に知っていただくためにも、広報等の周知方法も含めて進めていきたいと思います。
鳥羽会長	他にいかがでしょうか。
矢代委員	歯科医師会の代表として出席させていただいておりますけれども、救急医療について発言させていただきます。救急車が発動すると、1時間ほどとられてしまうようです。その間に他の方が救急車を呼んだときにすぐに来てもらえない可能性があります。本庄市の

	救急医療の体制は、どのようなものなのか知りたいです。北部の救急体制が充実すれば搬送の時間も短くなりますし、対応も良くなると思いますので、救急車の数を増やす等の取組をされてはいいかかと思ひます。 また、先ほどふれあい教室の話がありましたけれども、歯科医師会に歯科検診の依頼がありまして、現在検討中です。そういった形で歯科医師会も協力できればと思ひております。
鳥羽会長	どのような救急体制であるかということ、歯科検診のこと、2点お話がありましたが、事務局から発言お願いできますか。
事務局 (橋本課長)	救急の体制ですが、今ここでは詳しいことは分からないのですが、分署がいくつかあり、1台出た場合にはまた違う分署から発動するということで組んでいると思ひます。 また、ふれあい教室の歯科検診ということで、ご協力をいただければと思ひます。ありがとうございます。
鳥羽会長	他にはいかがでしょうか。
飯島委員	素朴な疑問をお伺ひしたいのですが、予算の算出はどのように行っているのでしょうか。例えば、地域交通で神川町のタクシー料金補助事業は神川町で決めていると思うのですが、そういうものっていうのは、神川の予算が上がってきてそれをビジョンに当てはめているのか、ビジョンで全体を考慮した上で神川に指示をしているのか、どちらでしょうか。事業によっては均等割りという考えのものもあると思うのですが。
鳥羽会長	事務局お願いします。
事務局 (矢本主事)	おっしゃるとおり、事業によって予算の立て方は異なるのですが、例えば先ほどお話いただいた神川町外出支援タクシー利用料金補助事業などは神川町で立てた予算をビジョンに掲載しており、共同で行っている事業については、1市3町で話し合いをして決めており、負担金という形で出し合っています。
鳥羽会長	他にはいかがでしょうか。
種村委員	行政だけでなんとかしようというよりは、先ほど話に出たこども食堂なんかはNPO法人などが行政を超えた形でメンバーが集まり、それに対しての食糧支援というものも行政を超えて全部集まっていると思ひます。ということは、自立支援協議会等々に比べれば遥かにそれなりの実績を収めていると思ひます。 あとは、民間は人材育成プログラムを当然持っており、行政に比べれば遥かに高い資質のプログラムが存在するのだと思ひます。我々の障害者団体でも、いろいろな講演に行政の方をお招きしたり、大学の先生だとか弁護士さんと呼んだりしたのですがけれども、

	最近は民間の方をお願いしています。そういう部分で言うと、行政とか大学とか公的なものにこだわる必要はないのではないかと思います。一番は、受講された人たちの話と聞くと、民間企業の講演は面白いという声もいただいています。色々な形でNPOや認可団体を含む民間の事業者と連携するのがとても有効な手立てではないかと思っています。
鳥羽会長	今はもう垣根を越えてどんどん進化しており、行政が対応できなくなっている現状があるのかなというふうに思います。このビジョンにおいても課題は課題として共有化する中で、皆で考えるといいのかなと思います。 他はいかがでしょうか。
清水委員	医師会では、検診事業、予防接種事業を1市3町で協議をして実施しており、そういった意味では医療に関しては垣根がなくなっているのではないかと思います。先ほど救急医療の話がありましたが、二次救急を輪番制で行っているのですが、例えば2人、3人と発動の必要が出たときには、伊勢崎市とも連携して、県を越えた体制をとっているところです。 また、大里では介護認定審査会を広域で行っていますので、児玉郡も共同で行えたらよいのではないかと思います。
鳥羽会長	未だ新型コロナウイルスは収束しておりませんが、コロナ禍において医師会の皆様には大変なご苦勞があったと思います。今のご意見に対し、事務局いかがでしょうか。
事務局 (矢本主事)	救急医療対応等、日頃よりご協力をいただきありがとうございます。また、介護認定審査会について、情報提供ありがとうございます。介護認定審査に限らず、1市3町で連携を始める場合は、住民の利便性が向上するか、もしくは行政事務の効率化につながるかを考慮し、それぞれの自治体で行うよりもメリットがあると判断できる場合には連携していきたいと考えています。
鳥羽会長	他にありますでしょうか。
風間委員	審査会の話なのですが、秩父の方は郡で行っており、1回当たり20人ほど審査しなくてははいけません。要はとてもニーズはたくさんあり、審査する立場も視点が広がります。共通の基準で審査できるという点では、メリットはあるのではないかと思います。 また、住民がここに住んでよかったと思えるのが大切だと思うので、すべての事業を全力で進めるのは難しいかと思いますが、優先順位というか、この地域ならではの取組を進めていただくと、地域らしさが出るのではないかと思います。
鳥羽会長	そうですね。今のご意見に対し、事務局いかがでしょうか。

事務局 (橋本課長)	ご意見ありがとうございます。いただいた意見を各ワーキンググループに伝え、今後も事業を進めたいと思います。
村上委員	「持続的・魅力的で誰もが誇りに思える圏域の創造」を圏域の将来像としてさまざまな取組を行っていると思いますが、行った結果、もう一度原点に戻って、将来像が達成されているのか確認が必要なのではないでしょうか。
鳥羽会長	非常に壮大な規模ですが、素晴らしい将来像ですね。事務局いかがでしょうか。
事務局 (矢本主事)	おっしゃるとおり将来像を達成するために取組を行っており、5年間の計画期間という単位を一区切りにしておりますので、5年なら5年で総括を行い、目標をどれくらい達成できたのか評価をしたいと考えております。
田中委員	行政にもできることに限りがあると思いますので、ぜひともそういったものは企業と協力しながら進めていけるとよいのではないかと思います。具体的には、どういったことをやっていったらよいのかという案をいただきたいと思います。
鳥羽会長	そのとおりですね。他にいかがでしょうか。
萩原委員	自分たちのまちのことはある程度知っているかもしれませんが、いざ隣のまちのことを知っているかと言われると、知らないことが多いのではないかと思います。地域で連携して何かを行うならば、まずは足元を見て、地域がどういうところで何があるのか知ることが大切なのではないかと思います。
事務局 (矢本主事)	まさに、連携を進めるうえで大切なことは、魅力を含め、地域のことを知ることからだと思います。ご意見ありがとうございます。
鳥羽会長	時間も迫ってまいりましたので、議題2を終了し、議題3その他として事務局から何かございますか。
事務局 (矢本主事)	事務局より1点お願いがございます。デジタルトランスフォーメーションを推進している中で、本日ペーパーレス会議方式にご協力をいただきました委員の皆様におかれましては、大変感謝申し上げます。来年度以降の会議におきましても、タブレット端末等を用意し、当日デジタルデバイス等をご持参いただくことなくペーパーレス会議を開催できる方法を検討しております。 つきましては、開催通知や資料等の送付先として、メールアドレスをご教示いただきたく、ご帰宅される前にお配りしました「本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員連絡先」へご記入のうえ、ご提出をお願いいたします。
鳥羽会長	以上で議事を終了させていただき、議長の座を降ろさせていただきます。議事進行へのご協力と熱心なご意見に感謝申し上げます。

様 式

橋本課長	貴重なご意見大変ありがとうございました。また、議長を務めていただきました鳥羽会長にお礼を申し上げます。 以上を持ちまして、令和5年度本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉会いたします。どうもありがとうございました。
------	--